



新しい年がスタートいたしました。年頭に開かれた乳業 13 団体新年賀詞交換会において、昨年牛乳の消費がやや上昇したという明るいニュースも聞かれ、今年も 1 枚でも多くの牛乳パック・紙パックが有効にリサイクルされるよう啓発活動に努めてまいります。

第3回北米紙パック原紙メーカー視察報告

昨年 9 月 5 日から 6 日間にわたり、容環協主催の北米視察ツアーに参加いたしました。パック連としては 3 回目の訪問となります。北米において紙パックリサイクルが開始され、今回はソーティングセンターの見学もセットされていることから、同行させていただきました。また、ウェアーハウザー社の液体用紙容器原紙事業を日本製紙が譲り受けたということもあって、森林管理や、廃棄物処理場の管理について新しい情報を得る必要がありました。

4 泊 6 日のスケジュールで、今回もまたシアトルからロチェスター、マイマ、ロングビュ、そしてポートランドを経由してサンノゼと、各視察先をまわり非常にタイトなツアーでした。

Weyerhaeuser の本社屋はシアトルへ転居

出発の 9 月 5 日の東京は、30℃を超える厳しい残暑でしたが、飛行時間約 10 時間を経てシアトルに到着すると気温はなんと 13℃。震えながら、シアトル市街地のダウンタウンへと向かいました。

途中食品スーパーにて、牛乳や家庭紙製品の棚をチェックしたのち、ウェアーハウザー社（以下 WH 社）の移転先が近くだということで、立ち寄りました。まだ、内装工事中で、壁に完成後の写真がかけられていきましたが、隣接する公園の木々に調和した 8 階建てのコンパクトな建物で、以前の本社屋と同様に景観を壊さない配慮がされているように思いました。



完成後の写真が壁にかけられていた

8 年前の訪問時、「WH 社は持続可能な経営を目指すため、組織の合理化をはかる」との説明を受けましたが、その通りに本来の森林事業に特化し、それ以外の事業から撤退していました。

タコマの森の中に建っていたあの広々とした 5 階建ての本社屋も、ロングビューの白板原紙工場及び新聞紙工場など紙パルプ分野の工場をすべて売却し、この社屋へ移ってくるとのことでした。

以前もご紹介しました WH 社の「この森林は我々や我々の子どものものではない。我々の孫のためのものだ」という社是の通り、創業したときの原点に返り、強い使命感をもって山林経営にあたろうとする WH 社の覚悟を感じられました。

— 9 月 6 日視察先 —

ロチェスター採種園とマイマの育苗場

WH 社の見学コースに必ず入るロチェスターの採種園とマイマの育苗場は、当然のことながら WH 社による運営が継続しています。建材に適している木材（成長の早い、まっすぐで節が少なく、密度が高いもの）を育てるため、どのような環境においてもしっかりと根付く種子を採取し、苗を

育て、国内外に向けて出荷しています。採種園では、8年前に訪問した際に育て始めていた第3世代の母木から今年採種したそうで、これまで改良に改良を重ねてきたので、大変期待をしているとのことでした。



セントヘレンズ森林学習センター

このセンターへは2回目の訪問となります。WH社・ワシントン州運輸省・NGOの三者のパートナーシップによって運営されていて、入場無料です。

1980年5月18日に、セントヘレンズ山は大噴火により山体崩壊を起こし、大規模の山林が被害を受けましたが、その中でもこの一帯の造林地を所有していたWH社は、27,520ヘクタールにのぼる被害を受けました。



その後1,000人の人員を動員して、7年にわたり取り組んだ森林再生プロジェクトについて紹介しており、現在のセントヘレンズ山周辺の豊かな自然の姿は、WH社の壮大な貢献によるものだと、改めて感じた次第です。晴れていれば、遠くにセントヘレンズ山を望むことができ、谷の中州に群れるエルクの姿など見ることができるのであるが、残念ながらこの日は雨模様で濃い霧に阻まれ、何も見ることができませんでした。

—9月7日視察先—

日本ダイナーウェーブパッケージング社

9月1日付でWH社の管理に置かれていたロングビューの液体容器原紙製造工場が、日本製紙グループの日本ダイナーウェーブパッケージング社(NDP)に移り、さっそく真新しい看板が私たちを迎えてくれました。



ロングビューの工場敷地には、液体容器原紙製造ライン及びラミネーションラインと、日本製紙とWH社との合併で運営していた新聞用紙工場NORPAC、グリーンマウンテンから移転した製材工場などが置かれていますが、8年前と異なりそれぞれ、液体容器原紙工場はNDP社が、NORPACは昨年10月に売却され、ワンロック社の管理下に、そして製材工場はWH社ということで、3社によって管理していくことでした。

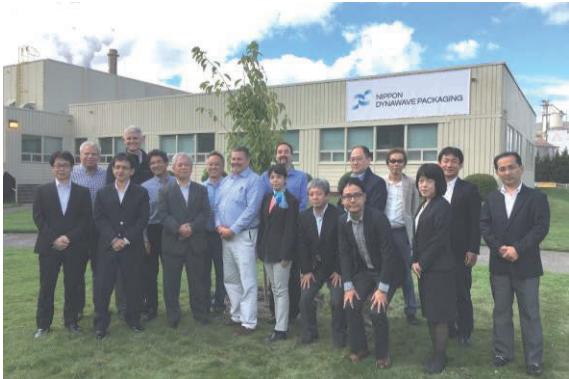
そのため、徹底した管理を行っていたWH社所有の最終処分場は、その地の自治体に譲渡され、以前は最終処分場で発生した排水を機関車でロングビューの工場に運び処理していましたが、現在は行っていませんでした。

一番初めにWH社を訪問した12年前は、スケールの大きい運営形態に度肝を抜かれましたが、今回、森林事業以外の一切を手放したWH社の様子に一抹の寂しさを感じました。しかしながらNDP社も新体制への最初の訪問団である私たちを、以前と変わることなく温かく迎え入れてください、前夜より担当の方々と交流を深める機会を設けていただきました。また、工場見学の後、容環協・全国パック連・NDP社相互によるプレゼントで、日米の紙パックリサイクル状況や、液体容器原紙の市況、LCAに関する情報を共有する時間も持たれました。ビジネスだけでなく環境についても、情報交流していく関係性が継続していくこと

に安堵いたしました。

液体容器原紙の市場についてですが、ゲーブルトップ製品は世界的に減少傾向にあり、カップ製品、特にコーヒー容器の需要は増加しているとのことでした。確かに、日本の再生紙メーカーにおいて、紙パックの入荷が落ち込み、紙コップ等の損紙・古紙を充当している話を聞いておりましたので、今後も国際市場のトレンドの変化を注視していく必要があるようです。

NDP 社の液体容器原紙の年間生産量は 290,000 トン。そのうちの 40%は日本に向けて。25%~30%が韓国・台湾・中国・インドなどのアジア諸国。残りは北・中米や中東ということでした。



— 9月8日視察先 —

スマートステーション

この日、ポートランドのホテルを 4 時に出て(冒頭の非常にタイトなスケジュールを象徴するかのごとく、起床は 3 時でした。) 6 時のフライトでサンノゼ空港に移動。そこから車で 30 分くらいのところにあるサニーベール市内の廃棄物処理施設「スマートステーション」に到着しました。

北米では、「カートンカウンシル」という紙パックのリサイクルを進める事業者団体(カートン製造メーカー、エロパック・コンビブロック・エバーグリーン・テトラパックの 4 社が正会員、原紙メーカー WH 社が賛助会員という構成)が発足し、スマートステーションなどの処理施設に、設備などの提供をしながら、紙パックの分別収集への協力を得ているとのことでした。現在は、WH 社が原紙製造ラインを売却したことにより、NDP 社が賛助会員に連なっています。

スマートステーションは、1993 年に設立し、周辺自治体 3 市から委託を受け家庭ごみ・事業系ご

みの分別処理を行っています。

日本のように市民がしっかりと分別して排出していないため、ほとんどごみの状態で搬入されていて自動選別は難しく、ごみの中から資源化できるものを人力で拾いだし、素材ごとにコンテナに集めベーラー化し、売却しているという状況です。資源化できないものは近くにある最終処分場に埋め立てています。



紙パックも分別していますが、1 週間に 1 ベラー程度と量は少なく、韓国や中国に輸出しているそうです。国内のメーカーに運ぶより、船便で輸出した方がコストに合うのだそうです。

ヨーロッパと同様に紙パックは洗われていないので、汚れ、臭いなど日本では原料として扱えないのではないかと思うほど、状態は悪いものでした。



北米視察を終え、ヨーロッパの時と同様、日本の資源分別の意識を改めて感じると共に、紙パックの回収ルールについても、理解を求めていく活動をさらに展開していきたいと思いました。

この視察でお世話になった日本紙通商(株)の中川氏及び NDP 社の皆様方、ツアーへお誘い下さった容環協の方々に心から感謝申し上げます。

会員各位へ、事務所移転についてのご報告

平素より、全国パック連の活動に対するご理解・ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

全国パック連がこの東中野に事務所を構えて早いもので24年目となります。

当時、全国パック連のシンボル的存在の前代表が亡くなり、今後活動を継続していくためには、より情報発信がしやすい東京に事務所を設けた方が良いだろうと、山梨県大月市から東中野に事務所を移しました。

歳月が経過し、情報化社会が確立された現在、サテライトオフィスという選択が容易な環境も整ってまいりました。

また一方で、2011年の東日本大震災の時には丸1日、2014年の大雪の際には1週間も帰宅困難となるなど、災害や天候による通勤への支障は、ここ数年多くなつてきましたように思います。

こうしたことから、昨年、全国パック連の評議会及び牛乳パック再利用マーク普及促進協議会総会において、経緯をご説明した上で事務所移転についてご相談したところ、ご了解をいただき、今年夏ごろをめどに山梨県大月市へ事務所を戻すことに致しました。

会員の皆様にはご迷惑をかけぬよう、滞りなく引っ越しを終えましたら、改めてご連絡をさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局日誌（2016年9月～12月）

9／1 古紙再生促進センター臨時総会	11／1 第10回環の縁結びフォーラム
5～10 北米視察ツアー	8 北九州市立天籟寺小学校出前授業
27 青梅市立今井小学校出前授業	9 佐賀市立若楠小学校出前授業
10／6 南アルプス市立白根百田小学校出前授業	15 牛乳パックで遊ぶ学ぶコンクール最終審査会
15 野田市紙パックリサイクル講習会	22 欧米リサイクル状況報告会 於:古紙センター
18 第5回紙パック回収システム強化研究会	24 横浜市立綱島小学校出前授業
21 紙パックリサイクル促進地域会議in名古屋	29 エコプロダクト全体説明会
22～23 ふじさん紙フェア	12／5 紙リサイクルコンテスト審査会
27 牛乳パックで遊ぶ学ぶコンクール第一次審査会	8～10 エコプロダクト2016

◎牛乳パックリサイクル・牛乳パック再利用マークについてのお問い合わせは

全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 / 牛乳パック再利用マーク普及促進協議会

TEL.03-3360-1098 FAX03-3360-7090

E-mail info@packren.org

ホームページ <http://www.packren.org>

〒164-0003 東京都中野区東中野 4-6-7-201

【牛乳パック110番】フリーダイヤル0120-89-4704 パックでヨナオシ 月～金曜 11:00～16:00